

演習 リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）

リスクアセスメント対象職場		①～③の実施担当者の実施日	④～⑥の実施担当者の実施日	⑦～⑧の実施担当者の実施日	社長（工場長）		製造部長	製造第○課長

① 作業名 （機械・設備）	② 危険性又は有害性と発生の おそれのある災害※	③ 既存の災害防止対策	④ リスクの見積り			⑤ リスク低減措置案			⑥ 措置実施後の リスクの見積り			⑦ 対応措置		⑧ 備考
			重篤度	発生可能性	優先度 （リスク）				重篤度	発生可能性	優先度 （リスク）	措置 実施日	次年度検討事項	
前処理作業	酸洗槽の通路を歩行時、安全柵が低かったので、通路端の配管につまづき、バランスを崩して槽内に転落し負傷する。													
めっき作業	めっき作業場の床面が水で濡れていた為、足を滑らせて転倒して、足首を捻挫する。													

災害の重篤度 ×＝致命的・重大 △＝中程度 ○＝軽度
優先度 Ⅲ＝直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。Ⅱ＝速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。Ⅰ＝必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
※災害に至る経緯として「～なので、～して」+「～になる」と記述

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）

リスクアセスメント対象職場		①～③の実施担当者		④～⑥の実施担当者		⑦～⑧の実施担当者		⑨の実施日		社長(工場長)		製造部長		製造第○課長	
① 作業名 (機械・設備)	② 危険性又は有害性と発生のおそれのある災害※	③ 既存の災害防止対策		④ リスクの見積り			⑤ リスク低減措置案	⑥ 措置実施後のリスクの見積り			⑦ 対応措置		⑧ 備考		
				重篤度	発生可能性	優先度(リスク)		重篤度	発生可能性	優先度(リスク)	措置	実施日			
浸炭炉への 投入・装出作業	フォークリフトで運搬中、エンジンを切らないで降りて作業をしていたところ、無人のフォークリフトが動いて、そばの作業者が後輪に挟まれて足を骨折する。	運転席から離れる時は、エンジンを停止する。		×	△	III	運転席から離れる時は、エンジンを停止して、鍵を抜いて所定の場所に掛ける。フォークリフトの専用軌道を確認する。	△	△	II	年2回のフォークリフト運転実技教育を実施して、安全走行の基本を徹底する。				
	クレーンで鋼材を吊り上げた時、錆びた不良ワイヤロープを使用したことで、切断して吊り荷が落下し負傷する。	ワイヤロープは廃棄基準に基づき、月例点検をする。		×	△	III	点検基準に基づいて、点検表でチェックする。点検したワイヤロープは、識別リングを取り付けて、混在しないように区分して使用する。	×	○	II	点検する吊り具の未回収が課題であり、未回収の吊り具の点検方法を検討する。				
	クレーンで鋼材を吊って走行した時、フックの外れ止レバーが曲がっていったので、ワイヤロープがフックから外れて吊り荷が落下し負傷する。	玉掛作業は、地切りの指差し確認を指導徹底する。		×	△	III	玉掛合図は明確に行い、合図者の待避距離を十分に取る。 地切りの合図は確実に行う。 吊荷のセンターは確実に合わせる。 不良フック外れ止レバーは交換する。	×	○	II	●玉掛合図の実技教育を全ラインで定期的に実施する。 ●現場の静止ハットロールを実施して、吊り荷の下に入らない！				
前処理作業	酸洗槽の通路を歩行時、安全柵が低かったため、通路端の配管につまづいた時に、バランスを崩して槽内に転落し負傷する。	安全柵高さは、基準で設置する。(クレーンの揚定関係で安全柵の一部が基準以下であった)		×	△	III	安全柵を高くする。 通路の配管を撤去して、通路下に取り付ける。	△	○	I					
	酸洗作業で材料を漬け替えている時、保護面を着用していなかったため、塩酸が飛散して目に入り炎症する。	酸洗作業時は、保護面を着用する。		△	△	II	酸洗作業では、保護面の完全着用を義務づける。 作業前に保護面着用のチェックを徹底する。	△	△	II					
	薬品を混合する作業をしている時、局所排気装置を作動させていなかったため、有毒ガスを吸引して中毒症になる。	作業前に局所排気装置を作動する。		×	○	II	点検表を作成して、作業前に局所排気装置の作動をチェックする。 有毒ガスを吸入しない様に防毒マスクを着用する。	×	○	II					
めっき作業	めっき防錆槽で液切りをする為、パイプレーションを作動させた為、吊り荷の番線が切れて落下し負傷する。	番線使用の吊り荷は、パイプレーション作動を禁止する。		×	△	III	番線使用の吊り荷の使用を禁止する。 吊り環又はジャックルを取り付けて、吊り荷の搬送方法を改善する。	△	△	II	重量目測による吊り具の選定方法を改善して、クレーンスケール(秤)の導入を検討する。				
	めっき作業場の床面が水で濡れているため、足を滑らせて転倒して、足首を捻挫する。	作業場は整理・整頓して、床面は清掃するように指導する。		○	×	II	作業場が水で濡れない様、作業改善をする。 床面は滑り止めのコーティングを施す。	○	△	I					
	めっき作業をしている時、前掛けの紐がほどけて、機械の駆動チェーンに巻き込まれて負傷する。	前掛けの紐は解けないように結んで作業をする。		△	△	II	掛けの結び紐をぶら下げないように構で縛るように指導する。 駆動チェーン等の回転物には、カバーを取り付ける。	△	○	I					
仕上げ作業	重量物の製品にチェーンスリングをつけて反転させた為、片側が張って寄り、製品と製品の間に腕を挟まれて、手を骨折する。	形状の異なる重量物は、無理に反転しない。		×	△	III	チェーンスリングをはずして反転作業をする。 重量物はクレーンで吊って、安全に反転作業をする。	×	○	I	異形の重量物を乗せて90度反転させられる架台を検討して改善する。				
	めっきした鋼管をスキット上で手入れ作業時、合図をしないで転がしたため、手の指を挟み骨折する。	作業前のミーティングで注意・指導する。		×	△	III	ミーティングで合図者を一人に決め、合図者は腕章をつける。 指差し呼称による合図確認を徹底する。	×	△	III	スキットにストッパーの取り付けを検討して改善する。				
	遠心分離機の乾燥時、上蓋を開けずに作業をしたため、不用意にパケットに触れて手を挟まれ鋭傷する。	遠心分離機を作動させる時は、上蓋を閉める。		×	○	II	チェックリストを作成して、上蓋の確認を徹底する。 上蓋を閉めない乾燥機が回転しない様、インターロック回路に改善する。	○	○	I	スキットにストッパーの取り付けを検討して改善する。				

災害の重篤度 Ⅹ＝致命的・重大 △＝中程度 ○＝軽度 発生可能性 Ⅹ＝頻繁・可能性が高いか比較的高い △＝時々・可能性はある ○＝ほとんどない・可能性がほとんどない
優先度 Ⅲ＝直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 Ⅱ＝速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。 Ⅰ＝必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
※災害に至る経緯として「～なので、～して」+「～になる」と記述